

# 第1回エコチル調査全国フォーラム

## ○ 取材レポート

第1回エコチル調査全国フォーラムの会場に取材班が行ってきました！  
参加者の生の声をお届けします。

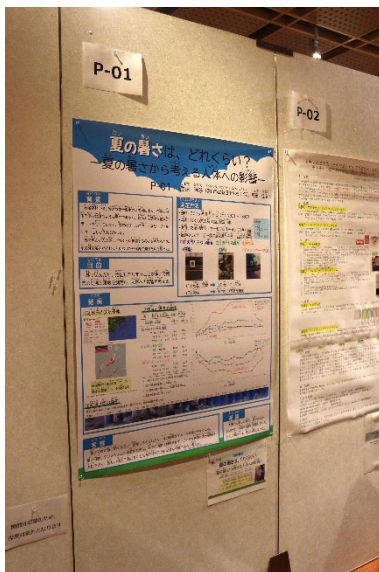
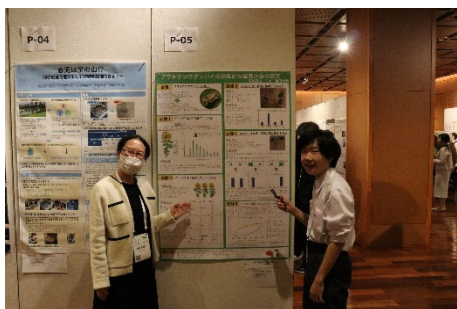
### ● 研究発表

科学の未来を担う小・中・高校生による研究発表。ステージでの口頭発表ではみなさん緊張の面持ちながらも立派に発表していました。ポスター発表の会場は広い多目的スペースで、たくさんのポスターをたくさんの方が見に来て大賑わい。ポスターを作ったみなさんは自分のポスターの近くに立って、興味を持ってくれた人に発表内容をしっかりと説明し、難しい質問にも答えていました。

発表者の高校生の一人からは「これまでは学校の中だけで発表をしていたが、今回、様々な立場の人に自分たちの研究を伝えられたのはとてもよい経験になった。」とのコメントをいただきました。

「探究学習の発表の場になるのでよい。また来たい。」とのコメントは、東京都の高校で生物を教える先生から。ポスター発表をする生徒を引率してきたそうです。「エコチル調査のデータを使用できると、高校生も疫学調査の初歩的な分析ができるのでは。」と、エコチル調査データの教育現場での活用について熱い提言もいただきました。

今回、最年少の参加者はなんと小学1年生！暑すぎて大好きなプールに行けなくなったことがきっかけで夏の暑さに関する研究を始めたようで、ご本人のお母さんは「小学生でも発表できるような機会はなかなかないのでよい経験になった。」と語ってくれました。



## ● 基調講演

吉野彰さん(旭化成株式会社)から、『リチウムイオン電池が拓く未来社会』をテーマに、ご自身の研究にまつわるお話とともに、若い世代の活躍への期待、エコチル調査への期待をお話いただきました。オゾン層の回復を例にした「人類はやればできる。」というお話がポジティブなメッセージとして心に残り、「今の子どもたちが大人になった暁には、サステナブルな社会もきっと実現できるはず。」と、明るい未来を思い浮かべることができました。

## ● 学術シンポジウム・ランチョンセミナー

学術シンポジウムでは玉腰暁子さん(北海道大学)、熊坂夏彦さん(国立成育医療研究センター、東京大学医科学研究所)、佐山晴亮さん(東京大学医学部附属病院)、藤尾圭志さん(東京大学)、森崎菜穂さん(国立成育医療研究センター)の5名がご登壇。各分野の先生からご自分の研究内容や成果を発表いただいた後、全員でエコチル調査に関する討論を行っていただきました。約10万組もの親子にご協力いただいていることが、未来の子どもたち一人ひとりにとっていかに重要か、改めて実感することができました。

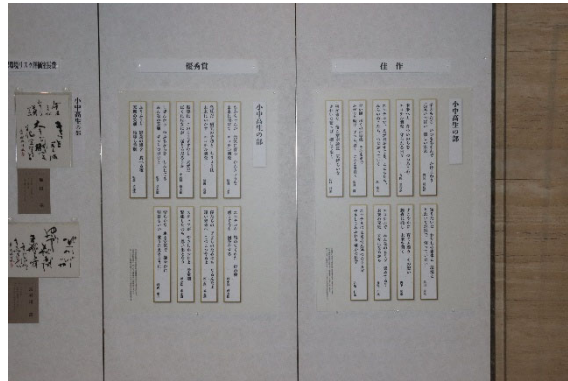
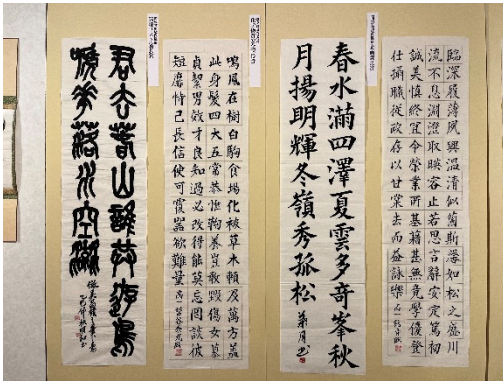
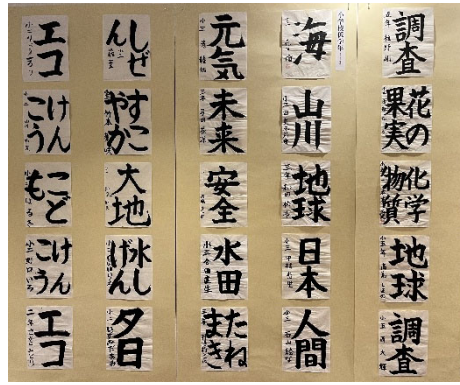
ランチョンセミナーではエコチル調査の第一人者である中山祥嗣さん(国立環境研究所)が「環境と健康」について実演形式でレクチャー。お弁当を食べながらのセミナーで、気軽に楽しい雰囲気の中、研究内容についてお話いただきました。「地球の健康は人の健康であり、空気も水も光もすべて私たちの健康に影響する。」というお話に、エコチル調査で調べている環境と健康のつながりを具体的にイメージすることができました。



## ● 書道展・短歌展

小学生の元気な筆からプロの壮麗な筆まで、多彩な書で埋め尽くされた展示会場。ご家族で見に来ている方も多く、ご両親と一緒に来ていた小学生は「自分の作品が展示されているので見に来た。」と教えてくれました。また、授業で書道を選択しているという高校生は「書く文字を決めるために環境省のホームページを見てエコチル調査を知った。」と話しており、エコチル調査や環境のことを考えるよいきっかけになったそうです。

書道展の応募数はなんと2251件！審査員によると、「書道の審査は実物を見なければわからないので、漢字、かな等、さまざまなジャンルの審査員がみんなで集まって審査をした。」とのことでした。



## ● 小倉百人一首競技かるた大会・エコチル調査かるた大会

一見、優雅なイメージもありながら、目の当たりにすると勝負の熾烈さに驚く、そんな小倉百人一首競技かるた大会。一瞬の速さを競って札を弾き飛ばす激しさから「畳の上の格闘技」とも呼ばれています。

出場者にお話を伺うと、学校の部活のチームで出場した、地域のかるた会やかるた大会で知り合った友達同士で出場した、など顔ぶれはさまざま。中には、ご夫婦で出場したというお二人もいて、「今後、子どもが生まれたらエコチル調査の成果をぜひ参考にしたい。」とのことでした。

華やかな和装やチームお揃いのTシャツなど出場者の服装も魅力的で、和装部門出場者からは「和装で試合ができる機会は少ないので嬉しい」との感想もいただきました。

激闘を制した各部門の優勝者からは「大会で優勝したのは初めて。」「学年のみんなで勝てて嬉しい。」など、喜びの声を伺えました。

いっぽう、エコチル調査かるた大会は和やかな雰囲気。こちらで使われたのは『エコチル調査かるた』で、小さいお子さんが競技かるたの選手と一緒に取り合いをして、1位賞品の『エコチル調査かるた』セットを目指して頑張っている姿がとても印象的でした。この『エコチル調査かるた』は今回、字札と絵札を募集して作ったオリジナルのかるたで、字札、絵札にはエコチル調査に関連した面白いもの、心温まるものもありました。

さらに、大会会場の横ではかるた教室も開催。普段はかるたをあまりやらないという方もスタッフに手取り足取り教えてもらいながらかるたを楽しんでいました。

スタッフ側として小倉百人一首競技かるた大会とかるた教室の運営にご協力いただいた「東京大学が

るた会」のみなさんは、「来年もぜひお手伝いしたい！」とイベント継続への意欲を見せてくれました。一方で、「最初はエコチル調査を知らなかった。」という率直な声も。「認知度を高める上で、子どもも参加できる体験型プログラムがあるのはよいこと。」というコメントをいただきました。



## ● 化学分析機器展示・パネル展示

企業の最先端技術を見て触って体験できる分析化学機器展示は大人気。展示エリアで出会った東京都の高校生たちは、「先生に声をかけられ、先輩研究者の発表を聞きに参加した。」とのこと。中には、弟さんが過去にエコチル調査に参加していたことからエコチル調査を知っていた生徒もいれば、今回初めてエコチル調査を知った生徒もいました。「自分たちも微生物の実験で機器を使っているのが面白かった！」と、分析機器に興味津々のご様子でした。

パネル展示では、パンフレットとポスターを中心に、趣向を凝らした展示がいっぱい。エコチル調査関連展示では、エコチル調査ユニットセンターやエコチル調査コアセンターの出展もあり、エコチル調査についての理解が深まる内容でした。また、分析関連メーカーの出展が多い中で、化学物質などの分析の面白さに焦点を当てて訴求されていた公益財団法人日本分析化学会さんの展示は、いちばん素敵なパネル展示に贈られるベストパネル展示賞を受賞されていました。



## ● スタンプラリー

スタンプ台は全 8 カ所あり、エコチル調査全国フォーラムの会場である東京大学本郷キャンパス内の伊藤国際学術研究センターと山上会館の両方に点在しています。この 2 会場はまあまあ離れているのですが、ひとたび始めれば全て埋めたくなるのがスタンプラリー。みなさんとても熱心に回っていて、ピンク色のプログラムブック(裏表紙がスタンプラリーの台紙になっていました)を持って東京大学の構内を歩いて回っている小さいお子さんや、「このスタンプは向こうの会場だ。」とまだ押していないスタンプを確認している親子連れの参加者もお見かけしました。全てのスタンプを集めると賞品として1日につき先着 100 名まで『エコチル調査かるた』がもらえたのですが、両日とも全部配布完了したそうです。

